
神という名の牢

イノル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神という名の牢

【コード】

N8040S

【作者名】

イノル

【あらすじ】

ひとつの小さな世界。

少年と神獣だけの小さな世界。

それを壊すのは、人間か、神か。

……それとも。

その少年は守人だった。

神獣の。

世界は、人間界と、神界とに分かれていて、神獣はその境に存在する。

神獣は高い、高い塔に住んでいて、少年はその姿を見た事が無い。

ただ、声だけは、聞こえる。

人々は、少年が守る神獣を尊い、敬う。

奉り、崇める。

だが、それは人間全てではない。

何故ならば、その肉は不老不死を授かると言われ、毛皮は輝くような美しさだという。

目玉はどの宝石よりも美しい。と言われているから。

少年は神獣の姿を見た事が無い。

けれども、そんな不屈き者を退ける為に、彼は、居る。

声は聞こえる。

いくつもの夜を、神獣との声と共に過ごしてきた。

彼は語る。

人々の歴史を。神々の物語を。

まるで父が子供に寝物語を聞かせるように。

少年は神獣と、幾つもの会話を交わす。

彼は問いかける。

其処から見える空とは？ 大地とは？ 神とは？ 人間とは？

神獣は悲しい声で、わからない。と答えるのみだった。

神獣なのに……。

神獣なのにね。

ある日、少年は知ってしまつ。

知るといふことは、なんといい無知を知る事なのだろうか。

神獣は神の世界の人柱だと。

生まれてから、死ぬまで、この塔の中にいる運命だと。

塔は彼の住まいではなく、牢であるといふ事を。

だから彼は何も知らない。

空の広さを。大地の土の匂いを、草のたなびく姿を。

そういう運命だと、神獣は笑つ。

その笑いは泣いているようにも聞こえた。

だから少年は決意する。

今まで、父のように、祖父のように、まるで兄弟のようにはじけてく
れた、彼の為。

今、塔を 壊す。

神々の世界が、どうなっても構わない。この世界が壊れても構わない。

神獣を外に、空に、大地に放してやりたい。

この広い空を翔れるように。この広大な草原を駆け回れるように。

その想い、だけ。

その後、神獣がどうなるのかも、世界がどうなるかも、わからないまま。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8040s/>

神という名の牢

2011年10月9日01時07分発行